

農山村振興・環境保全対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p>令和 7年 7月 9日</p> <p>開 会 午前 9時 55分</p> <p>閉 会 午前 11時 05分</p>	
2 会議の場所	第3委員会室	
3 出席者	委員	<p>委員長 村下 貴夫 副委員長 田中 勝士</p> <p>委員 渡辺 嘉山 伊藤 秀光 布俣 正也</p> <p>伊藤 英生 恩田 佳幸 所 竜也</p> <p>小川 祐輝 森 益基</p>
	執行部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	主査 杉山 俊之 課長補佐 佐藤 由子	

5 会議に付した案件		
件	名	審 査 の 結 果
<p>1 森林吸収源に関する取組について</p> <p>(1) 「G-クレジット制度」について</p> <p>(2) 東白川村森林組合の特徴と取組</p> <p>【参考人】</p> <p>東白川村森林組合</p> <p>代表理事組合長 桂川 恒裕 氏</p> <p>参与 今井 克幸 氏</p> <p>企画販売係 内木 玉枝 氏</p>		
2 その他		

6 議事録（要点筆記）

○村下貴夫委員長

ただいまから、農山村振興・環境保全対策特別委員会を開催する。

本日の委員会は、森林吸収源に関する取組を議題として協議するために開催するものである。

本日は執行部のほか、議題についてご報告いただくため、東白川村森林組合代表理事組合長桂川恒裕様、参与今井克幸様、企画販売係内木玉枝様に出席いただいている。

東白川村森林組合の皆様には、大変ご多用のところお越しいただき、感謝申し上げます。

質疑については、執行部の説明、そして東白川村森林組合様の報告後にお願います。

最初に執行部の説明を求める。

（執行部 説明）

○村下貴夫委員長

続いて、東白川村森林組合様より、ご報告をいただく。

（東白川村森林組合 説明）

○村下貴夫委員長

それでは、執行部説明並びに東白川村森林組合様の報告に対し、質疑はあるか。

○布俣正也委員

東白川村の山は間伐作業がしやすい形状をしているのか。

○今井参考人

作業道が1ヘクタールあたり60メートル整備されているため、ほとんどの山で間伐実施が可能となっている。

○布俣正也委員

車両系による搬出が多いとのことだが、車両が進入可能な路網が整備されているということか。

○今井参考人

作業道が整備できない急傾斜の箇所はやむなく架線で集材するが、比較的幅が狭い作業道を広範囲に整備しているため、多くの林地で車両系による搬出が可能となっている。

○布俣正也委員

F S C森林認証制度に取り組むことのメリットは何か。

○桂川参考人

東白川村森林組合では、F S C森林認証を取得してから22年間継続しているが、現時点では、金銭面での明確なメリットは感じられていない。しかし、国際的な認証を維持することで、企業と連携した森林づくりが可能となっている。今後は、経済的な還元も視野に入れながら、より多くの企業と協力して森林づくりに取り組んでいきたい。

○布俣正也委員

G-クレジットの主な販売先は建設業者だが、購入して良かったという声は寄せられているか。

○内木参考人

自分の地域を応援したいという思いから、地元の市町村からの購入を希望されるお客様が多くいる。今後も、購入していただいたお客様にとってメリットが感じられるよう組合として情報発信を続けていきたい。

○森益基委員

令和6年度分の1,752トンのクレジットは既に完売したという理解でよいか。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

令和6年度分は全て完売している。

○森益基委員

令和7年度の認証分は、2,637トンが既に販売されているという理解でよいか。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

2,637トンのうち、自然攪乱や土地収用等に備えたバッファ分が109トン、実際に販売されたクレジットが2,528トン、合わせて2,637トンとなっている。

○森益基委員

今後販売可能なクレジット量は、10月に認証される見込みの1,333トンと合わせて2,581トンという理解でよいか。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

10月認証見込みの1,333トンはバッファ分を除いていないため差し引く必要がある。また、1,333トンは見込みであるため、増減する可能性がある。

○森益基委員

クレジット販売の今後の見通しはどのように考えているか。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

現在も多くの企業から問い合わせが寄せられており、6月に認証したクレジットについては完売できると考えている。また、10月認証分についても完売できるようG-クレジットの森・応援パートナーとして登録されている企業を中心に、購入の働きかけを進めていきたい。

○伊藤秀光委員

J-クレジットは手続きが難しいとの説明があったが、それをしてでも取り組むのはなぜか。

○内木参考人

J-クレジットは国際的な認証であり購入を希望する企業も多いため、審査に費用がかかるが、組合として積極的に取り組んでいる。一方で、県のG-クレジット制度は審査や申請費用が無料であるため、利用しやすく、ありがたく思っている。

○伊藤秀光委員

F S C 認証材を活用した製品に付加価値を持たせることは難しいか。

○内木参考人

現時点では、製品に付加価値を付けて取引されていない。今後は、県の支援も受けながら、全国的なF S C 認証材の普及に取り組んでいきたい。

○村下貴夫委員長

質疑も尽きたようなので、質疑を終了する。

桂川様、今井様、内木様には感謝申し上げます。

(参考人 退室)

○村下貴夫委員長

以上で本日の議題は終了だが、他に意見はあるか。

(意見等なし)

○村下貴夫委員長

意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

最後に委員会視察について連絡する。

当委員会の視察を、8月7日木曜日に行く予定であり、行程については追って通知するが、やむを得ず欠席する場合は事務局への連絡をお願いする。

農山村振興・環境保全対策特別委員会 配席図

令和7年7月9日

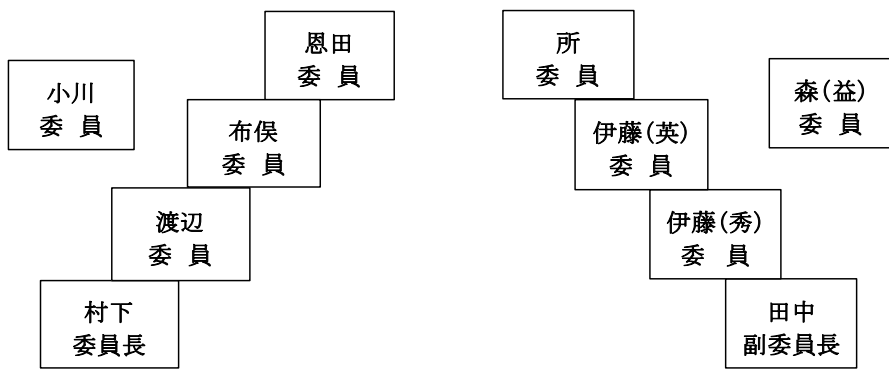
第3委員会室

出入口

		中村 森林経営課 林業改革室長	河本 森林活用推進課 森林吸収源対策 室長
大島 森林保全課長	石田 森林経営課長	山岸 森林活用推進課長	久松 林政部長

江崎 環境生活政策課 生物多様性企画監	松尾 省エネ・再エネ 社会推進課 エネルギー企画監		
古田 農政部次長	佐藤 農政課長	大川 環境生活政策課長	安江 省エネ・再エネ 社会推進課長

傍聴席・記者席



参考人 ディスプレイ 参考人

議会事務局

出入口